



小学校 年 組

名前

火山ジュニアマイスタースクール

しま ばら あま くさ いっ き  
島原・天草一揆と

はら じょう かく だい ち  
原城に隠された大地のヒミツ

テキスト執筆・編集

長井 大輔 雲仙岳災害記念財団 学芸員  
東山 陽次 雲仙岳災害記念財団 学芸員

写真提供・協力／順不同・敬称略

南島原市／南島原市教育委員会／朝倉市秋月博物館／一般社団法人島原半島観光連盟／  
かすてら本舗長崎屋／森本拓／田中妙／草野俊彦

引用・参考文献／資料

有馬直純宛書状(1638) 吉川英治記念館所蔵  
南有馬町教育委員会(1969)南有馬町郷土誌。  
Min-Khant-Kyaw, Aki Kato, Kenta Adachi, Yasufumi Iryu & Masasuke Baba(2024)  
Coralline red algal species diversity at a shallow rhodalith bed in warm-temperate  
Japan, including two new species of Roseolithon  
(Hapalidiales, Corallinophycidae). Phycologia, 63, 6, 520–533.  
長崎県南島原市教育委員会(2010)南島原市文化財調査報告書 第4集 原城跡IV。  
長崎県南島原市教育委員会(2021)史跡 原城跡保存活用計画。  
大上隆史(2024)島原湾南部の海底地形。2024年日本地理学会春季学術大会講演予稿集。  
大沢信二・風早康平・安原正也(2002)島原半島の温泉・鉱泉の流体地球化学。温泉科学,  
52, 2, 51–68。  
産業総合研究所(2024)阿蘇4火砕流堆積物分布図1:250,000。  
寺井邦久(2021)島原半島南部における先雲仙火山から雲仙火山への移行期  
(1.9~0.3 Ma)の火山層序。火山,  
67, 3, 319–333。



Rebelião cristã no Japão

火山ジュニアマイスタースクール副読本  
2025年8月作成

企画・発行：公益財団法人雲仙岳災害記念財団  
レイアウト・デザイン：有限会社アド・シンク 川崎樹里

本事業(およびテキスト作成)は、防災教育チャレンジプラン活動支援金の助成を受けています



原城は、島原半島南部を治める有馬晴信が、活動の中心地である日野江城を守る出城として、1604年に築いた城です。原城跡は、本丸、二ノ丸、三ノ丸、鳩山出丸、天草丸などの平らな台地で作られています。

晴信の時代、農民のほとんどがキリスト教信者でした。その後、晴信が退くと、息子にあたる有馬直純が1614年に宮崎県延岡市に移され、鎌倉時代からの有馬統治は終わりを告げます。

そこで、1616年に新たに藩主となったのが松倉重政です。1618年の島原城の築城にともない、原城や日野江城は廃城となりました。この頃、幕府の命令を受けてキリスト教信仰の取締りが強化されますが、島原や天草で多くの農民がひそかに信仰を続けていました。さらに松倉重政による重い税に苦しんでいたところへが飢饉が重なり、農民たちの不満が限界に達し、武士への反乱（島原・天草一揆）を起しましたが、島原城を落すことはできませんでした。こうした流れに天草でも同じく反乱が起こり、農民たちは島原で合流し、あわせて約2万数千人（所説あり）が最後の戦いとして原城を拠点に立てこもりました。

図1-1 そら み はらじょうしゅうへん  
空から見た原城周辺



写真：南島原市提供

図1-2 はらじょう れき し ねんびょう  
原城をめぐる歴史年表

1563年	●	島原にキリスト教が布教される
1603年	●	江戸幕府が開かれる
1604年	●	有馬晴信が原城を完成させる
1614年	●	江戸幕府が全国にキリスト教禁教令を <b>発</b> 布する
1616年	●	松倉重政が新たな藩主となる
1618年	●	島原城が完成し、原城と日野江城が廃城となる
1637年	●	6.14 島原・天草の代表が湯島で談合 10.25 有馬村集会に押し入った代官や小浜村でも別の代官が殺害される 10.26 城へ進軍し、火を放つ（島原・天草一揆が起る）
1638年	●	1.1 板倉重昌の率いる幕府軍が敗北、 <b>板倉重昌が戦死</b> する 2.27~28 幕府軍の総攻撃により一揆軍が <b>全滅</b> する

あまくさ しろ う じんぶつ  
天草四郎はどんな人物？

天草四郎は、本名を益田時貞といい、島原・天草一揆の際に、16才という若さで、農民たちのリーダーとして反乱を起しました。四郎は、幼いころから学問に励み、長崎で勉強をしていました。そのような中、迫害を受けるキリスト教信者や重い年貢に苦しむ農民のために立ち上がり、農民とともに幕府軍と戦いました。いろいろな奇跡を行ったと言われており、一揆軍結束の精神的な象徴になりました。

図1-3 はらじょうほんまる あまくさ しろ う ぞう  
原城本丸の天草四郎像



地元出身の彫刻家北村西望氏が作った。

こうぼう  
攻防のゆくえ

江戸幕府をゆるがす大事件に、三代将軍の徳川家光は、1637年11月9日、第一陣の板倉重昌を総大将として派遣するよう任命しました。板倉重昌は、島原城に到着してすぐに諸藩の兵を率いて原城に立てこもる一揆軍に、12月10日と20日の二度の総攻撃を行います。城の固い防御の前に中々制圧できません。そこで、三度目となる1638年1月1日、板倉重昌は自ら陣頭に立って総攻撃を行いました。1月4日に原城周辺の幕府陣営に到着し、城内の食料や弾薬を無くさせ、一揆軍の抵抗を弱める兵糧攻めの策にあわせて、さらに金を掘る職人を使ってトンネルを掘らせたり、矢文を放ったり、オランダ船を呼び寄せ援護砲撃させるなどの心理的な作戦を試みました。最終的に2月27日～28日に幕府軍は総攻撃し、一揆軍を全滅させ、ようやく反乱をしずめることができました。島原・天草一揆に関わった幕府軍は延べ約12万の軍勢ともいわれています。

図1-4 しまばらじん ず びょうぶ せんとう ず あさくら し あきづきはくぶつかんぞう  
島原陣図屏風(戦闘図) (朝倉市秋月博物館蔵)



原城に立てこもる一揆勢を攻撃する光景を描いている。

参考：史跡 原城跡保存活用計画(南島原市教育委員会, 2021)

原城は、南島原市南有馬町にある古い火山の裾野にあります。その火山の裾野に別の火山から火砕流が流れてきました。海側から乗り上げるように流れてきた火砕流によって火山の裾野は、火山灰や軽石で数十メートルの厚さで埋め尽くされました。火山灰や軽石の地層は比較的柔らかく、海側は波によって削られて崖になりました。また、地層の山側は海から入り込んだ水や川で削られて谷ができました。このようにして残った土地が原城の台地です。このため城の四方が低くなっていて、敵からの防御に適した天然の要害となりました。

図2-1 原城周辺の大地のなりたち

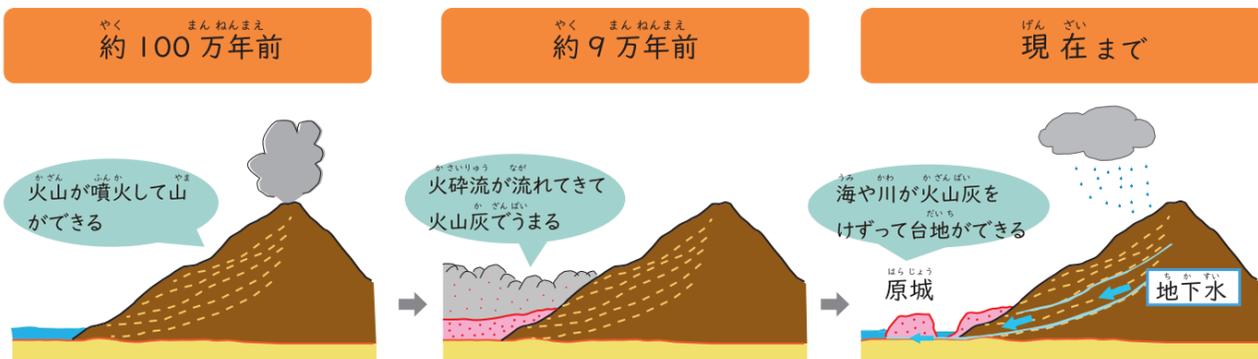


図2-2 一揆軍と幕府軍の陣地



「惣陣元ノ図」南島原市教育委員会蔵

幕府軍はもともとあった古い火山の裾野に陣を置き、原城にいる一揆軍と対峙しました。幕府軍は海から大砲を使って攻撃を行いましたが、原城の高台には届かなかったために、大砲を陸地の高い位置に上げて攻撃を行いました(図2-2の丸の位置)。これによって大砲は直接城まで届くようになりました。

Memo

.....

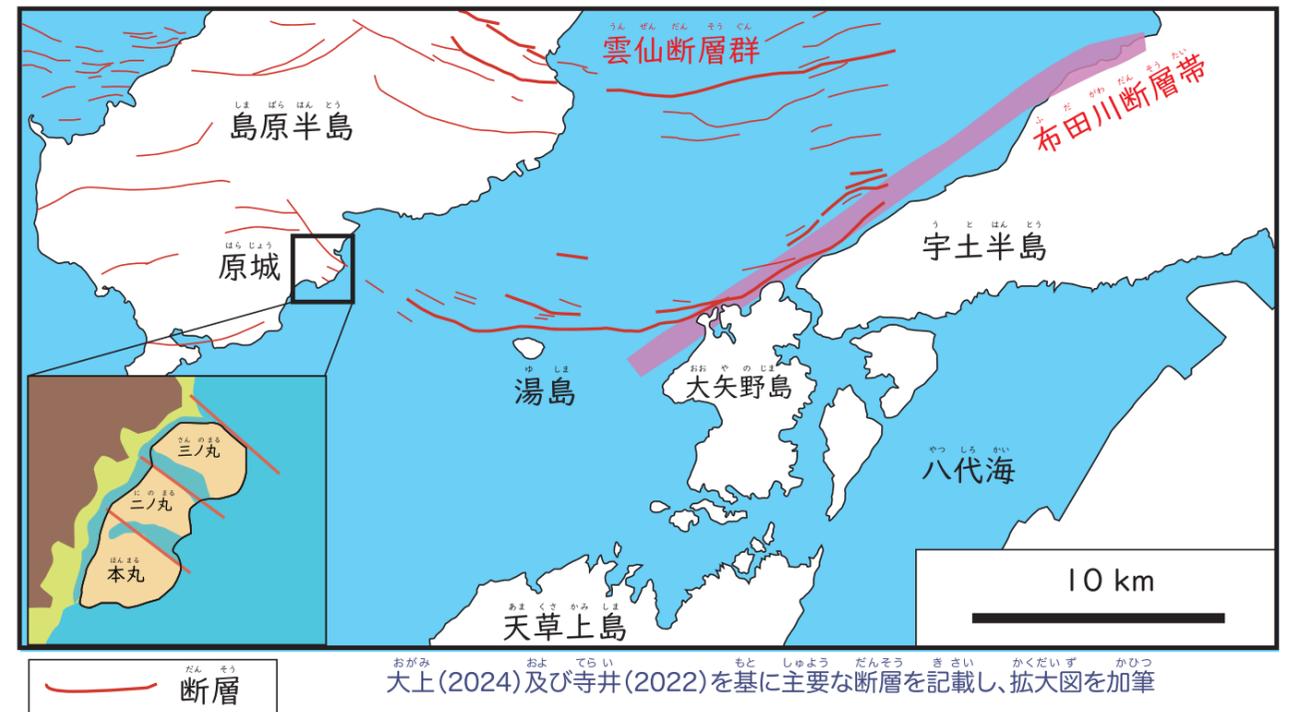
.....

.....

お城の輪郭をつくったもの～海底調査で新しく分かった大地の裂け目

原城には、本丸や二ノ丸、三ノ丸などの台地に分かれます。最近の研究で原城沖の海底が調べられ、熊本方向から続く長い断層が原城近くまで伸びていることが分かりました。この断層は熊本では“布田川断層帯”と呼ばれていて、2016年に発生した熊本地震を起こした断層の一つとして知られています。原城にはこの断層に沿う平行な崖があり、それらで分けられた台地を本丸や二ノ丸、三ノ丸として利用されています。

図2-3 熊本から伸びる海底断層と原城の位置



大上(2024)及び寺井(2022)を基に主要な断層を記載し、拡大図を加筆

原城周辺では、原城の断層に沿う崖からしみでた湧水がくぼ地にたまり、泥の湿地帯になっていました。攻め込む幕府軍からすると泥に足をとられ進みづらく、城としての天然の防御となっていました。幕府軍は原城にたてこもる一揆軍に対して陸側を占拠し食料を運び込ませないようにして“兵糧攻め”を行います。これに対して、一揆軍は干潮時に背後の海から魚や貝などを採って食料にし、採った魚を幕府軍に城の上から見せびらかしていたそうです。

Memo

.....

.....

.....

Let's try 断層を歩いてみよう!

原城の玄関口である大手門は原城の北側の海岸沿いにありました。大手門は周囲が崖になっていて入口からは細い階段を上っていくように道がありました。この崖は断層で地面がずれてできた崖で、天然のよう壁となっていました。崖があった様子が絵図に描かれています。また現在、大手門跡には道路が通っていて、この崖を上る坂を歩くことができます。

図2-4 断層がつくった崖を利用して設けられた大手門

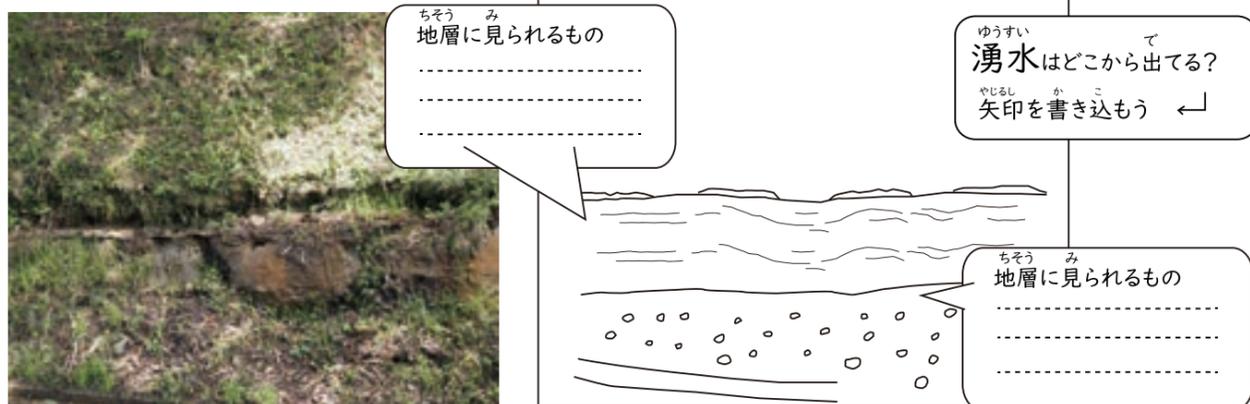


この崖を前に苦戦した幕府軍は、宮崎で金を採掘していた職人を呼び寄せて、原城に通じる地下通路を掘らせた。一揆軍はそれに気づき、穴に木の葉を焼いた煙を入れるなどして攻撃を防いだそうです。

Let's try 地層からしみでる湧水を見よう!

大手門を上る坂の途中に、地層が見られます。道路のすぐ上の層をよく観察してみましょう。丸い石が地層の中に見つかります。この丸い石はかつてここに川があった時代に流れてきたものです。その上には灰色の細かい粘土のような地層が見られます。この地層は火山が噴火して積もった火山灰です。この層は粘土質できめ細かいため、水を通しにくく、上の層からしみ込んだ地下水がこの地層の上から湧き出しています。このような水源は一揆軍の飲み水として利用されたと考えられます。

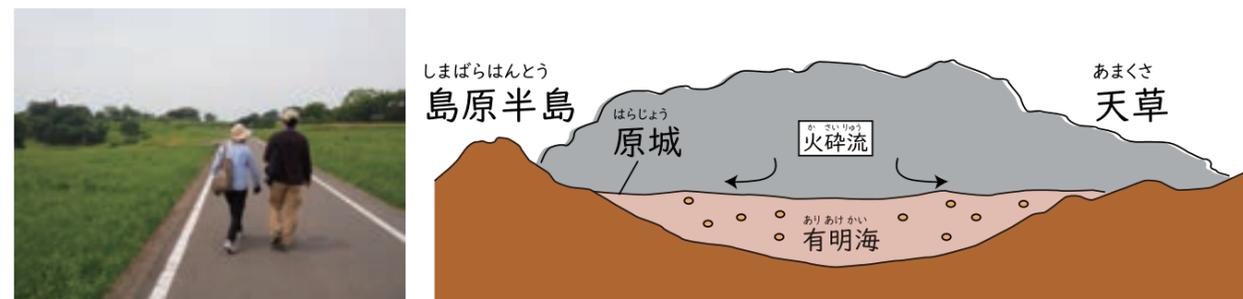
図2-5 大手門で見られる地層



火砕流がつくった台地～有明海を埋めた? 巨大な火砕流

原城の本丸や二ノ丸周辺を歩いてみると、広く平らな地形が見られます。この地形は阿蘇火山の大噴火で起きた火砕流がここまで流れてきて作った地形です。火山が噴火して風に乗って飛んでくる火山灰は、地形にそって同じような厚さで積もります。一方、火砕流など横から流れて積もる地層は、谷やくぼ地などを埋めるように積もります。原城が平らな地形になっているのは、火砕流が有明海周辺を埋めて平らにしたからです。現在長い年月をかけて火山灰が削られ海が戻っていますが、有明海沿岸にはこのような一定の高さの台地がいくつも見つかっています。

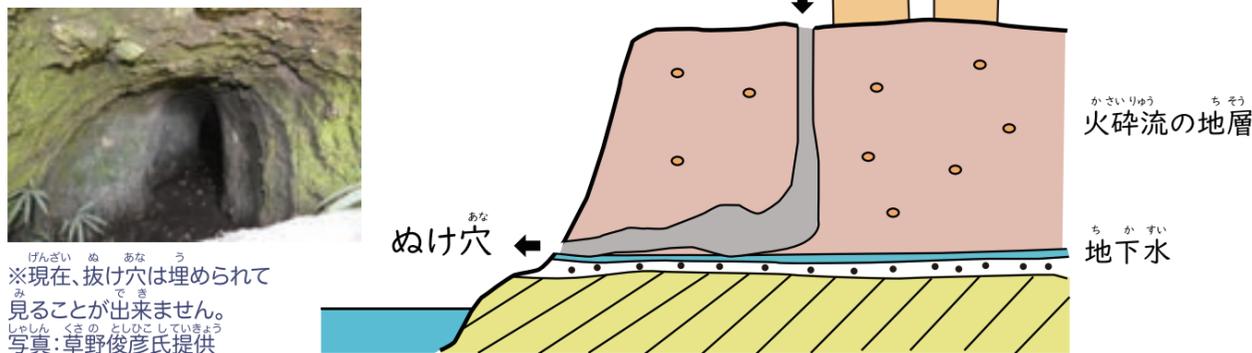
図2-6 火砕流がつくった平らな地形



原城本丸跡に見つかったぬけ穴

原城本丸には一揆軍が作ったぬけ穴のような穴が見つかっています。普通、井戸は地面を垂直に掘り下げていきますが、この穴は約20m掘り進んだ後は横に方向を変え、本丸の裏側にある海岸に出られるように掘られていました。また、穴の途中には人が留まることできる空間もみつかりました。この穴が掘られた地層は、火砕流で運ばれてきた軽石や火山灰が積もった地層で、比較的柔らかい地盤でした。穴の一番深いところは火砕流の下の比較的硬い地盤にあたったところで、そこから横に進んでいます。また、ここからは地下水が湧き出していて、一時的に飲み水として利用できることも考えられ、隠れるのにも適していたことでしょう。

図2-7 本丸のぬけ穴(イメージ図)と現地写真



火砕流の地層には、軽石がたくさん含まれています。軽石は文字通り軽い石のことで、中には水に浮くほど軽いものもあります。激しい噴火ではマグマに火山ガスが閉じ込められたまま噴き上げられて、急激に冷やされます。マグマは冷やされると固まって石になりますが、小さな空気の穴がたくさん含まれたまま固まると、見た目より軽い石ができます。専門家の調査によると原城では最大約50cmにもなる大きな軽石が見つっています(産業総合研究所, 2024)。

図2-8 水に浮く不思議な石と穴ぼこ



火山と断層がもたらした温泉～原城温泉と景観

原城三ノ丸の海岸には、原城温泉があります。この海岸沿いでは古くから自然に温泉が湧き出していたそうです。温泉の専門家による調査によると、原城周辺で温泉になるような高い温度の地下水は、地下数百メートルから湧き出しています。この温泉が地表に湧き出すのは、断層に沿って温泉が湧き出していたからと考えられます。現在温泉で使用されている水は、安定して水をくみ上げるために数百メートルの深さまで温泉用の穴が掘られています。この温泉は肌を滑らかにする効果があり「美肌の湯」として知られています。原城は雲仙火山からは少し離れた位置にありますが、専門家の分析ではその成分の中にマグマからの火山ガスが含まれているそうです(大沢ほか, 2002)。雲仙火山の景観を見ながらその恵みの一つである温泉に入ってみましょう。

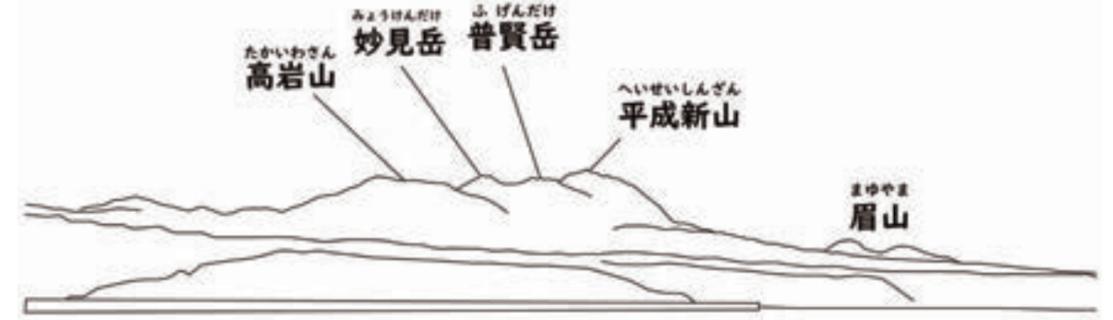
Memo

.....

.....

.....

図2-9 原城温泉から見る雲仙火山



南蛮船がやってきた原城沖の海岸～ミニチュア鬼の洗濯岩

一揆の際、幕府軍は平戸からオランダの軍船を呼び寄せて、大砲を使って攻撃を行いました。その時の軍船の様子が絵図に残っています。この軍船がやってきた原城沖の海岸では、潮が引いた時にシマシマ模様の岩盤が姿を現します。これらの岩盤は、もともと海底で水平にたまった泥や砂の地層が、長い年月を経て地殻変動で地層が斜めになったものです。斜めになった地層が、波で削られていく時に柔らかい層はへこみ、硬くしまった層は残るので、海面に地層がノコギリの刃のようなかたちに見えます。宮崎県宮崎市の青島周辺ではこのような海岸が広がっていて「鬼の洗濯岩」と呼ばれて観光地になっています。原城でもこのミニチュアが見られます。

図2-10 原城にやってきた南蛮船

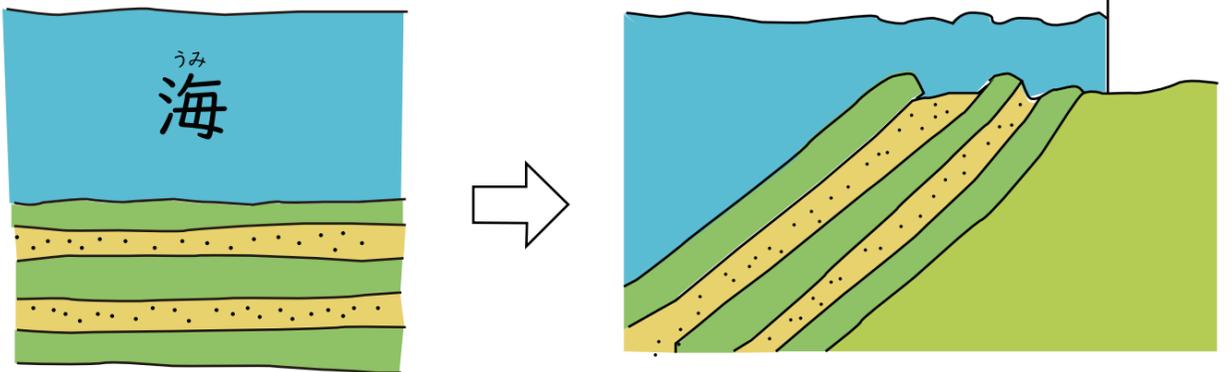


「原城包圍陣型図」個人蔵 (寄託:南島原市教育委員会)

図2-11 原城二ノ丸跡の海岸



図2-12 ミニチュア鬼の洗濯岩のでき方イメージ



# 第3章 原城の海岸で見つけられる石をみてみよう

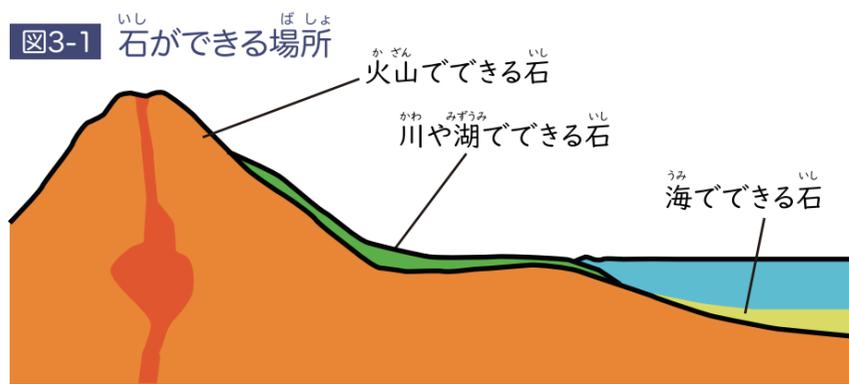
## 原城沖にあらわれる白洲の正体はなに？

白洲は、原城跡から約300m沖合の春から夏にかけて大潮の干潮時に海面に現れる場所で、船上陸することができます。白洲は、紅藻類の一種である「リソサムニウム」が密集してできた浅瀬と考えられてきました(南有馬町郷土誌,1969)。リソサムニウムは、石灰質の殻を持った海の海藻の一種ですが、最近の研究から、これが「サンゴモ」であることが分かりました(Min-Khant-Kyaw et al., 2024)。サンゴモは海水中のカルシウムや二酸化炭素を取り込み光合成して成長する海の植物で、赤紫色をしています。死ぬと白っぽく変化します。これらが集まり白い砂浜に見えることから、地元では真砂と呼ばれています。同様のサンゴモからできた場所は、対馬、吉岐、五島、青森県、三重県、南西諸島でも確認されていますが、潮が引いた時に姿を現し、直に目にする場所が国内でここだけだそうです。



## 原城の海岸で見つけられる石ころ

原城の海岸に行くと、様々な色や形の石を探ることができます。このような石はどこで誕生したのでしょうか？石の名前やできかたを見てみましょう。原城の海岸で見つかる



石には、雲仙火山や南島原の火山が噴火してできた岩石(デイサイト、安山岩、玄武岩)や、川・海で砂・泥・れきが固まってできた岩石(泥岩、砂岩、れき岩)や深い海の中で小さい生物の殻が固まってできた岩石(チャート)があります。

## Let's try 石ころの種類と数を調べよう

原城で見られる石にはどのような種類の石があるのか調べてみましょう。石の観察シートをもとに、見つけたらメモに調べた数を記録してみましょう。

### 火山でできる石

デイサイト黒

デイサイト赤

安山岩黒

安山岩赤

玄武岩

Memo

計  (A)

### 川や湖でできる石

砂岩

れき岩

Memo

計  (B)

### 海でできる石

白チャート

赤チャート

泥岩

サンゴモ

Memo

計  (C)

## Let's try 調べた石の数から割合を計算しよう

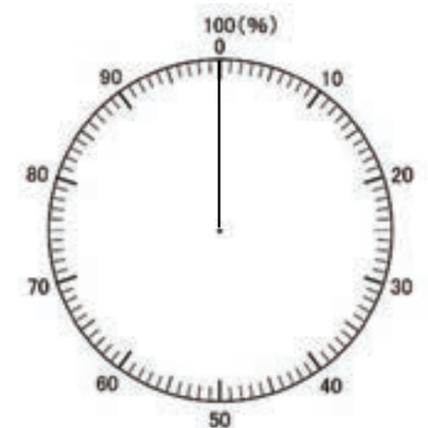
調べた数の全部の合計 = (A) + (B) + (C) = [ ] (D)

1 火山でできる石の割合 = (A) ÷ (D) × 100 = [ ] %

2 川や湖でできる石の割合 = (B) ÷ (D) × 100 = [ ] %

3 海でできる石の割合 = (C) ÷ (D) × 100 = [ ] %

## Let's try 調べた結果をグラフにまとめよう



じんこう みつど み しまばら あまくさ いっ き とくちょう  
**人口密度から見た島原・天草一揆の特徴**

島原・天草一揆では、一揆軍と幕府軍でどれほどの人々が関わったのでしょうか？実際に一揆軍と幕府軍の人数と面積を仮定して、人口密度(人口の混み具合として、ある面積の中にとれだけの人がいるか)を計算してみましょう。

Let's try じんこう みつど しら  
**人口密度を調べよう**

1 はらじょう た いっ き ぐん  
**原城に立てこもった一揆軍**

23,000人(人数) ÷ 0.41 km<sup>2</sup>(面積)  
 =  人/km<sup>2</sup>  
 → 1000m×1000m  人  
 → 100m×100m  人 ÷100

2 はらじょう そう こう げき ばく ふ ぐん  
**原城に総攻撃する幕府軍**

120,000人(人数) ÷ 1 km<sup>2</sup>(面積)  
 =  人/km<sup>2</sup>  
 → 1000m×1000m  人  
 → 100m×100m  人 ÷100

3 げん ざい みなみあり まちょうみん  
**現在の南有馬町民**

4,300人(人数) ÷ 23 km<sup>2</sup>(面積)  
 =  人/km<sup>2</sup>  
 → 1000m×1000m  人  
 → 100m×100m  人 ÷100

この人口密度は、  
 1000m×1000m(1km<sup>2</sup>)の面積あたりの  
 人数です。分かりやすい100m×100m  
 (およそ野球場くらいの大きさ)の面積あ  
 たり人口密度は、100で割ることで求  
 められます。

はらじょうほんまる あまくさ しろう ばしよ  
**原城本丸の天草四郎ゆかりの場所をめぐってみよう**



日本の歴史史上で有名な島原・天草一揆で、その総大将となった天草四郎とはどんな人物だったのか。原城には四郎が見たであろう景色が広がっています。ぜひ原城をめぐってはいかががでしょうか。四郎といえば、額に巻く鉢巻姿をイメージしますが、それがカラムシという植物から作られていることを知っていますか。カラムシの繊維をより合わせて作った縄を三つ編みにして使っていたと言われています。

みなみしまばら かい あり ま せき  
 南島原ガイドの会 有馬の郷  
 ガイド 田中さん

図3-2 原城本丸に生えるカラムシ



Let's try はらじょうほんまる めぐ  
**原城本丸のみどころを巡ってみよう!**

原城本丸・周辺には、歴史・火山に関わりのあるみどころがたくさんあります。島原・天草一揆の歴史や見ごたえたっぷりの風景を現地で体感しましょう。

1 いっ き こ く よう ひ じ ぞう  
**一揆後の供養碑「ホネカミ地蔵」**

北有馬の住職や南有馬の庄屋らが、一揆から約130年後の1766年に原城跡から発見された人骨を敵味方区別なく拾い集め、供養した碑です。ホネカミとは、骨をかみしめる意味から、地蔵が人々の霊を自分自身の物にし、人々を救うと言われています。



2 ぼうぎょ たか わ そと ますがた こくち  
**防御の高さが分かる「外柵形虎口」**

正門に入ると、敵が侵入しにくいように、城の外縁から西側に飛び出した外柵形の直角に折れ曲がる作りになっています。石垣には雲仙のデイスイトが6割、南島原の玄武岩が3割使われています(南島原市教育委員会, 2010)。一揆軍が鉄砲を使って狭い通路を進入してきた幕府軍を側面上から攻撃することができました。



3 けんじゆつ たつじん はなし  
**剣術の達人の話**

宮本武蔵は、江戸時代を代表する二刀流の剣術家です。武蔵は、一揆軍を攻撃する幕府軍側で参戦したと言われています。しかし、意気込んで石垣にしがみついて攻めたときに、一揆軍から石を投げられ、足に当たり傷を負ったため、戦場から引き上げてしまったそうです(有馬直純宛書状, 1638)。



図3-3 原城本丸周辺の拡大図



4 いっ き ぐん そうたいしやうあまくさ しろう いえ はか  
**一揆軍の総大将天草四郎の家と墓**

四郎の家は、1638年2月28日の原城総攻撃のとき、四郎がいた場所と考えられています。墓碑には、天草四郎の名が刻まれており、後の時代に西有馬町民家の石垣から発見され、この場所に移設されました。



